

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	武雄市立武内小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>「健康・体づくり（望ましい生活習慣の形成）」家庭でのゲーム・テレビ視聴時間の大幅な増加が、前年度に比べて、児童の基本的な生活習慣の改善が見られる。本年度は、学校と家庭と連携して取り組んでいきたい。</p> <p>・業務改善、教職員の働き方改革の推進については、だいぶ推進されてきたが、コロナ感染対策が緩和される中、どのように行事を復活させていくかは重要な課題である。</p> <p>・「志を高める教育」を推進するにあたっては、地域・家庭との連携した教育活動を更に充実させ、自他を大切にしたい自己肯定感を育む教育活動をすすめていきたい。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	学校大すき・友だち大すき・ふるさと大すき 武内っ子 ～自他を大切に、主体的に課題解決できる子ども～
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>① 校内研究において、個別最適な学び・協働的な学びの実現を目指した授業改善を行い、自立した学習者を育成する。</p> <p>② ふるさと武内を愛する子どもを育成し、ふるさと武内における防災教育を推進する。</p> <p>③ 働き方改革の推進を通して、教職員の心身の健康増進と、児童と向き合う時間確保をめざす</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学力向上対策評価シートの効果的な活用による改善に向けた取り組みを達成した教師85%以上	○学力向上対策評価シートを共有し、各学年における課題に対して学校全体で取り組む。 ○定期的に学校の取り組みを見直す機会を設け、目標に対する進捗状況を確認する。	B	・学力向上対策評価シートの効果的な活用による改善に向けた取り組みを達成した教師は、66.3%であった。今後理解と実践を重ねていきたい。 ・ステップ123を点検し自分の授業を振り返ることで西部型の授業の向上を図ることができた。	B	・学力向上に向けての学校側の取り組みが60%以上達成出来たことは良いことだと思う。 ・教師が児童の学びをサポートする授業形態で児童の学ぶ意欲と学力の向上を期待している。	技部
	○自ら学び方を選択し、深く考える児童の育成	○年度末の学習アンケートにおいて、自分で学び方を選んで学習したり、友だちの考えを聞いて自分の考えを深めることができていると回答した児童が80%以上になる。	・校内研において、個別最適な学びについての単元開発を行い、実践することで、自分で学び方を選んで学習できる児童の育成を目指す。 ・自分の振り返りの癖に気が付いたり、友だちの良い考えに触れたいするために「わがとも月間」を実施する。また、その後2回目の「わがとも月間」を実施することで、自分の振り返りの変化に気がつくことができるようになる。	A	・年度末のアンケートにおいて、「自分で学び方を選んで学習したり、友だちの考えを聞いて自分の考えを深めることができると答えた児童は、96%であった。校内研究においては、個別最適な学びについての研修と授業実践を重ねることで、教員の指導力が向上し、児童の学びが深まっていると考えられる。次年度は今年度の実践をもとに作成した「武内小振り返りシート」を使い、自己の学びを振り返る児童を育成していきたい。	A	・児童アンケートの結果から、児童が学び方を選択し、友達の考えを聞いて自分の考えを深めているという実感があることがわかり、素晴らしいことだと思う。	技部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●自分や友達を大切にしながら、学級活動や委員会活動、縦割り班活動に積極的に取り組んでいると回答する児童を85%にする。	・青空教室やクリーンタイムをはじめとする縦割り班活動の振り返りに認め合いを取り入れ、その一部をMVPカードに書いて掲示したり、活動の様子写真を掲示したりすることで関心を高める。	A	・児童の評価が高く、MVPの発表や掲示は、児童の自己肯定感や他者理解の高まりがあったと考えられる。来年度も縦割り班を中心とした児童会活動の取組を充実させていきたい。	A	・今の時代、なかなか地域ではできにくいやりでの交流を積極的に学校でやっていただいている。 ・心の教育こそこれからの児童の成長にとって大切なことであり、今後もこのような活動を進めていただきたい。	心部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ未然防止、早期発見、早期対応のために組織的対応ができていると回答する教員を85%以上にする。	・毎週の連絡会の気になる児童の報告会、教育相談期間後の共通理解の場を通して、各学級の気になる児童への対応、支援を教職員全員で行うようにする。 ・ケース会議を必要に応じて開催する。	A	・気になる児童への対応が適切に行われたと評価できる。保護者に対して、児童理解についての取組を積極的に発信していくことで、保護者の関心を高めていきたい。	A	・いじめに対しての早期発見と素早い対応ができていると思う。 ・いじめ問題は受け取る側の気持ちが大きく影響するので難しい。何気ない一言が相手を傷つけることも多い。	心部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」として肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・教育相談期間において児童一人一人の声を耳を傾け自己肯定感や自己有用感が高まるように支援していく。 ・各学年における教育活動において、キャリアパスポートを通して目標を持って活動に取り組みさせ、今後の自分の成長に期待を持てるように振り返りを行う。	A	・教育相談期間をはじめとする、児童との面談が確保されたことで児童が自信を持って学校生活をおくることができた。 ・将来の夢や目標を持って生活する児童が増えた。キャリアパスポートで振り返る内容に学級活動や学校行事の達成感が反映されていると思われる。今後も一人一人の自己有用感を高める活動を推進していきたい。	A	・児童が面談の中で悩みを訴えることで、当事者の人間関係によっては後でよくない影響があることもある。配慮をお願いしたい。 ・将来の夢をもとに図工作品を作ったり、学期ごとや学習単元ごとに目標をもって活動することができたりして、大変よいと思う。	心部
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●学校生活5か条・家庭生活3か条の項目を守れていると回答する児童80%以上にする。 ●自主的に健康な体づくりに取り組んでいる児童及び、家庭でのゲーム・テレビ時間を自己管理できる児童を80%以上にする。	・月末に学校生活5か条、家庭生活3か条が守れているか振り返り、翌月に生かすように声かけをする。 ・テレビ・ゲームのマイルールの作成を各家庭にお願いをし、学校と保護者が一体になって活動を進めていくことができるようになる。 ・保健だよりを毎月発行し、生活習慣に関わることや病気に関することの周知を図る。	B	・学校生活5か条、家庭生活3か条を意識して生活できていると肯定的な回答をした児童の割合が87%であった。これらの取り組みに対する保護者の回答の17%が「判断しにくい、よく分からない」という意見だったので、保護者をより巻き込むことのできる発信を来年度以降に心がけていきたい。	B	・保護者が自身の役割を認識し、行動することが最も大切。 ・保護者はもちろん、社会スポーツ団体の中での大人からの指導も児童の発達には有効だと思う。 ・家庭内ではリビングにテレビがついていても、児童はスマホでユーチューブを見たりゲームに没入している。その生活が、早起きができずに朝ごはんを食べてないまま学校に登校することにつながっている。	体部
	○ふるさと武内における防災教育の推進	○学期初めの通学路点検や毎月の安全点検、防災に関する研修会や各種避難訓練を効果的に実施し、有事の時の自分の役割を認識していると答えた教師100パーセント以上。	・年3回の校区内巡視を実施し、校区の危険箇所を職員で共通理解を図る。 ・予告ありの避難訓練だけでなく、予告なしの避難訓練(児童に対して)を実施し、常に危機管理を高めることができるようになる。	A	・積雪の際に、教職員で役割分担をし、下校の見守りをしたり、安全を確保したりすることができた。 ・火災・地震・原子力の避難訓練(10月)や予告なしの不審者対応の避難訓練(2月)を実施した。来年度以降は職員異動などに対応するためにもなるべく早い段階で研修などの機会を確保していきたい。	A	・学校側も児童の通学路の危険箇所を把握していただき、安全管理につとめられている。今後はその情報を長寿会をはじめとする地域にも伝えてほしい。	体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間(月45時間・年360時間)を下回る教職員を85%にする。	・毎日18:30の退勤促進。月初めに個人へ時間外勤務時間の累計と年間360時間の到達割合を示すことで、自己タイムマネジメントの意識を持たせる。 ・地域行事等の時間外勤務については「帰らなっ券」を配布し、自分時間の活用を促進する。	A	・10月から12月までの全職員の時間外在校等時間数は平均25.1時間であり、今年度前期と比べても少なくなっている。職員の働き方改革の意識が進み、計画的に職務遂行ができつつある。教職員アンケートでも、「よくできている・大体できている」と答えた職員はあわせて83.4%であり、目標値に迫った。今後ますますの改善を目指したい。	A	・数字上は減っているが持ち帰りの仕事をされているのではないかと感じる。 ・金曜日の定時退勤日・月末半日デーで効果が上がったのではないかと考えている。児童と向き合う時間を減らすことはできないので、その他の業務の簡素化などに取り組んでほしい。	管理職
	○業務効率化の推進	○児童に関する諸問題について、組織対応ができていると回答する職員を85%以上にする。	・ススキ校務を有効活用し、業務のスリム化を図る。 ・健康づくり情報誌「smile」を連絡会で配布し、健康管理・メンタルヘルスに関する声かけをする。	A	・管理職が好機を捉え、職員へ健康保持の声掛けをしたり、それぞれの職員が連絡会で短時間の児童に関する情報共有をしたりしたことが、職員のストレスを緩和し、組織対応の面でも功を奏した。その一方で、教職員の100%が「組織的対応がよくできている・大体できている」と回答しているのに対し、保護者のそれは84.5%で、意識のずれがあることがわかった。今後改善の糸口を探りたい。	A	・業務の効率化については、保護者と教職員のアンケート結果にずれが生じている。原因としては、学校の支援や対応が保護者に見えにくいことがあげられる。今後は、アンケート対象を教職員のみにしてはどうか。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育	○地域・家庭との連携を充実させ、自他を大切にしたい自己肯定感を育む教育活動の推進	○総合的な学習の時間、特別活動等の学習活動を通して、自己肯定感や達成感をもたせた児童を80%以上にする。	・各学年の教育課程において、地域や家庭とのつながりを生かした学習を取り入れる。 ・学年末の振り返りアンケートで、肯定的な回答ができた児童を80%以上にする。	A	・地域や家庭とのつながりを意識した学習を計画し、地域協働本部との連携で行うことができた。 ・学年末の振り返りアンケートでは、自己肯定感や達成感をもたせた児童は、83.3%であった。 ・今後も、協働本部と連携して実践していきたい。	A	・感染症対策も考えながらではあるが、今年度は地域協働本部と連携して様々な活動ができたことが伺える。	教務
○特別支援教育の充実	○支援を必要とする児童の支援体制の充実	○特別支援教育に関する専門的な知識や支援方法が向上したと回答する教員を85%以上にする。	・特別支援教育に関する研修会を年4回開催する。 ・必要に応じてケース会議を開催し全体に共有する。 ・保護者への啓発活動を特別支援だよりを発行し行う。 ・特別支援学級の授業参観の後に講師を招いての研究会を行う。	A	・気になる児童の共通理解の時間に、児童理解に加えて、担任の困り感を話したり、アドバイスしたりする時間を設けたいと考えている。 ・また講演会等あれば保護者理解も高まると考えている。 ・来年度も、校内研を中心しながら特別支援の授業の在り方について研究を深めていきたい。	B	・児童の気になる情報について職員全体で共有する場が設けられていて心強い。	特別支援教育C

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>振り返りシートを作成し全校で取り組むたい。</p> <p>・児童の自他を大切にしたい自己肯定感を育むために今年度も取り組みを重ねてきたが、児童同士のトラブルの原因として言葉遣いが挙げられることが多かった。次年度は、人間関係を豊かにする取り組みを充実させる。 ・「健康・体づくり(望ましい生活習慣の形成)」については課題が見られた。特に、夜のゲームやユーチューブ視聴時間が児童の睡眠時間に大きな影響を与えている。育友会と共に、保護者への啓発と児童の自己管理能力を高めるための対策が必要である。</p>
----------------	--